

第2回木質科学シンポジウム

「木質バイオマスの安定確保と地球環境との調和」

地球温暖化防止の観点から、石油資源の代替としてカーボンニュートラルである木質バイオマスに注目が集まっている。木質バイオマスは農業と競合しない山岳地帯や低降水量地域でも生産可能であることから大きな期待が寄せられている。木質バイオマスの利用拡大は、新規市場の創出による経済の活性化、地域の活性化などに大きく貢献すると考えられるが、バイオ燃料やバイオプラスチック原料として需要が飛躍的に増大すると、近い将来、その安定確保が困難となるであろう。本シンポジウムでは、木質バイオマスの安定確保に向けて、現在行われている、海外植林、東南アジア・ブラジルにおける国際共同研究および協力開発における現状と課題、木質バイオマスの増産に向けた樹木バイオテクノロジー最前線研究に焦点を絞り、それらの重要性について話題提供する。

主催：日本木材学会

後援（依頼中）：日本木材加工技術協会、日本木材保存協会

日時：2007年5月12日（土）14：30～17：00

場所：東京大学弥生講堂一条ホール（東京都文京区弥生1-1-1 Tel. 03-5841-8205）

講演：

「地球環境に調和し、持続可能な21世紀の木質バイオマス産業を目指して」

王子製紙（株）森林資源研究所 境野 信氏

「熱帯林の持続的経営に向けた国際連携 ブラジルとインドネシアでの取り組み」

名古屋大学大学院生命農学研究科 福島 和彦氏

「ポストゲノム時代の木質バイオマス研究 網羅的解析のための研究体制の必要性」

京都大学大学院農学研究科 栗野 達也氏

参加費：無料